武蔵野美術大学 保護者向け情報誌

MUSABI *information*

Musashino Art University Information

February 2024

特集1
第43回猿橋賞受賞 宮原ひろ子教授

特集2 mauleaf
2023年度芸術祭執行部委員長インタビュー

4 学科紹介［油絵学科グラフィックアーツ専攻］
6 授業紹介
7 卒業生紹介

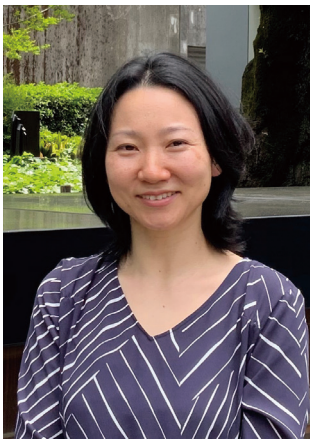
10 NEWS
［在学生保護者向け教育懇談会・インフォメーション］
11 本学関連施設展覧会情報
12 2024年度前期学事予定／お問い合わせ先

特集1

第43回 猿橋賞受賞 宮原ひろ子 教授

「太陽活動の変動のメカニズム
およびその気候への影響に関する研究」で、
優れた若手女性科学者をたたえる
「第43回（2023年）猿橋賞」を受賞された
宮原ひろ子教授（教養文化・学芸員課程）
を特集します。

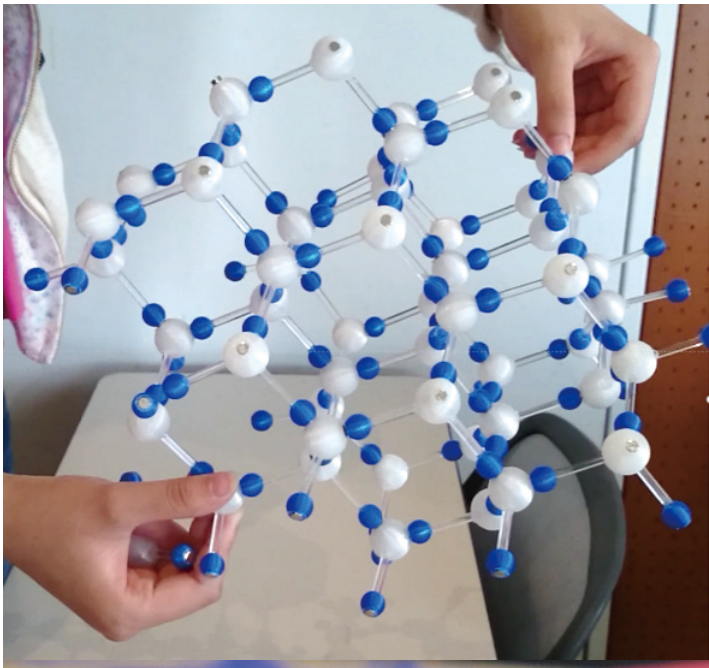
猿橋賞
自然科学分野で優れた研究業績をおさめた
女性科学者を表彰する賞。50歳未満の若手が
対象で、「女性研究者の登竜門」と言われる。
地球化学者の猿橋勝子さんが女性科学者に
光を当てようと1980年に創設された。



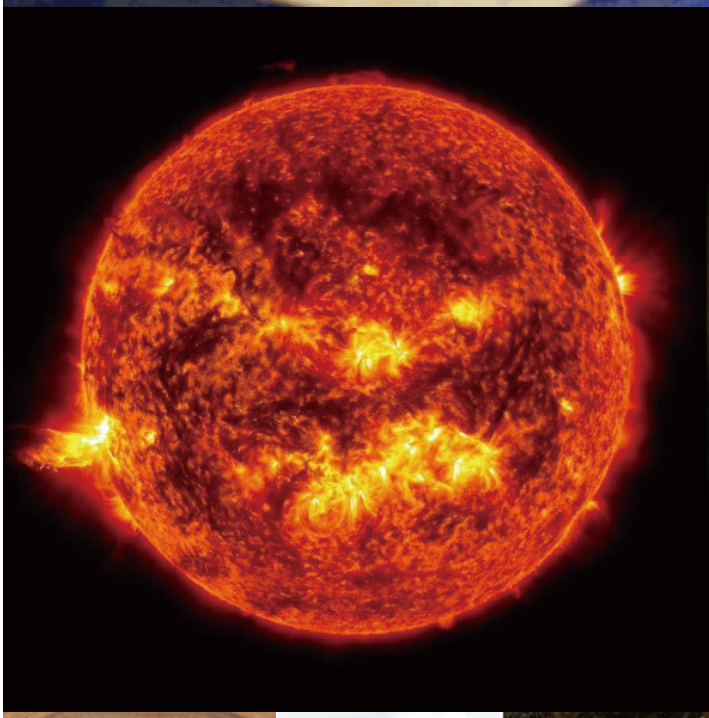
宮原ひろ子
MIYAHARA Hiroko

1978年　埼玉県生まれ長崎県育ち
2005年　名古屋大学大学院理学研究科
　　博士課程（後期課程）修了
2013年　本学着任

主な受賞歴
2008年　第5回地球化学研究協会奨励賞
2012年　文部科学大臣表彰若手科学者賞
2015年　第31回 講談社科学出版賞
2020年　第1回米沢富美子記念賞
2023年　第43回猿橋賞


1

2


3

4

1 水分子モデルを使って組み立てた
氷の結晶のモデル
2 音の周波数に応じて幾何学模様が
変わるクラドニ図形
3 人工衛星に搭載された紫外線
観測装置がとらえた太陽の姿
（Credit: NASA/Goddard/SDO）。
明るく光っているのが太陽の内側から
磁場が沸き上がってきている領域。
4 1年ごとの縞を持つ樹木の年輪（左）と
石灰質の堆積岩（中・右）。

授業のご紹介

文化総合科目I類で宇宙の進化や惑星の科学、地球外生命の探索などについて学ぶ「宇宙の科学I」、宇宙開発に関連する科学や技術について学ぶ「宇宙の科学II」、物理の基礎やそのサイエンスアートへの応用を学ぶ「自然科学I」、地球史を扱う「自然科学II」などを担当しています。そのほか、II類の演習科目として、「自然科学演習」を開講しています。自然科学演習では、簡単な分子モデルを使って自己組織化について学んだり、キャンパスの放射線計測を行ったり、目に見えない放射線を可視化することのできる霧箱を作成して放射線が飛び交う様子を観察したりしています。そのほか、科学リテラシーを身につけるためのトレーニングを行ったり、最先端の科学技術の研究について調べたり論文を読んだりする機会も設けています。

教員の研究内容

樹木や堆積物など、毎年少しずつ縞を形成していく自然物の成分の分析から、過去千年にわたって太陽活動がどのように変遷してきたのか、またその変動が地球にどういった影響を及ぼしてきたのかについて研究しています。太陽はとても謎につつまれた天体です。内部で作られた磁場が表面にどんどん湧きあがり、強力な磁場やプラズマの風を日々宇宙空間に放出しています。そして、その活動度が十～数千年の周期で変動しています。ところが、太陽の活動がダイナミックに変化しても、太陽から放たれる光の量はほとんど変化しません。ですから、太陽の活動が大幅に低下したときになぜ地球が寒冷化するのか、まだ誰も明確な答えを持っていません。私自身は、太陽の磁場の強さが変わることで、宇宙から太陽系に飛んでくる高エネルギーの放射線の量が変わり、それが地球の気候に影響しているという説に興味を持って研究を進めています。高エネルギーの放射線は、大気のイオン化を通して水蒸気を雲粒に成長させる手助けをしているかもしれないと考えられています。雲は、もし水蒸気だけで作ろうと思うと、数百%という過飽和度が必要ですが、地球にはそういった濃い水蒸気は存在しません。水蒸気が集まりやすくなるような電気を帯びた小さな粒が存在すると、簡単に雲が作られるのです。森林や火山が放出する物質のほかに、宇宙から飛んでくる放射線もそういった小さなとっかかりとなる粒を作っているかもしれないのです。過去に太陽活動が弱くなって放射線がたくさん降り注いだ時代に地球で何が起こったのかを探ることで、宇宙と地球との関係性を探っています。

写真1・2参照

教員メッセージ

制作活動においては、実技の専門的な知識だけではなく、なにを表現するか、どう伝えるか、ということもとても重要になってきます。教養文化の授業は、社会人としての基礎的な力をつけるだけではなく、制作の引き出しを増やす上でもとても重要だと考えています。また、制作において科学的な知識や工学的な技術が必要となってくる場面もあります。私が所属する教養文化・学芸員課程研究室では、学生さんの要望にも耳を傾けながら、ここ5年ほどをかけて理工系の科目の充実を図ってきました。数学、化学、生物学などに関係する科目の充実を図ってきたほか、データサイエンスやロボティクスの基礎を学ぶことができる授業も新設しました。また、プログラミングの基礎を学ぶことができる演習の充実にも力を入れてきています。ムサビは、教員と学生との距離が近いところが魅力で、学生さんと一緒にムサビでの学びを充実させていけるところに喜びを感じています。本研究室では、放課後などに、課題や卒業制作などで技術的な指導や研究指導が必要になった場合の相談にも応じています。困ったときはぜひ気軽に声をかけていただければと思っています。

写真3・4参照

『地球の変動はどこまで宇宙で解明できるか　太陽活動から読み解く地球の過去・現在・未来』
宮原ひろ子 著
化学同人、2014年
（第31回 講談社科学出版賞受賞、2015年）

日々の天気の変化から数億年規模の気候変動まで、地球には様々な変動が見られます。本書では、そういった変動が、どこまで宇宙からの影響で説明できるか、という問いに迫ります。太陽活動や、宇宙から降り注ぐ放射線が地球におよぼす影響を探る「宇宙気候学」の最先端を紹介しています。

『太陽ってどんな星？』
宮原ひろ子 著
新日本出版社、2019年
（第32回読書感想画中央コンクール
小学校高学年の部 指定図書）

本書は、屋久杉や南極の氷から太陽活動の歴史を読み解く研究について、小中学生向けに紹介したものです。日々変化する太陽の表面の様子、太陽フレアとオーロラとの関係性、また、フレアによって社会が受ける影響についても解説しています。最終章では、太陽活動と日々の天気との関係性に迫る研究についても紹介しています。

学科紹介

本学は造形学部と造形構想学部の2学部に、絵画、彫刻からデザイン、建築、映像、芸術文化、社会課題解決まで、美術・デザインの広がりをもつ12学科を擁します。本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介いたします。

油絵学科グラフィックアーツ専攻（版画専攻）

版画は美術作品の領域を超え、絵本やイラストレーション、写真、映像、立体など、あらゆる複製メディア表現にその規範を広げる中、グラフィックアーツ専攻では積み重ねられた版画の「伝統」に向き合うとともに、版画を起点とした「現代」の美術表現への展開を視野に入れ、ファイン系とデザイン系の両領域が多層的に重なり合う学びの場を実現しています。

＊2023年4月より版画専攻からグラフィックアーツ専攻へ名称を変更しました。

施設紹介

版画技法の習得のために4版種それぞれの専門工房が完備されています。リトグラフ（石版）工房では、天井の高い広い空間の中で学生たちがのびのびと自由に制作に没頭できる環境が整備されています。その中心となるのは、従来型のリトグラフプレス機3台に加え、本学がオリジナル設計したLXCプレス機（新日本造形）5台を備えた充実した設備です。また、授業のために保有している実習用の石版石（ドイツ・ゾルンホーフェン産）は質・量ともに国内随一を誇ります。

一方、2023年度より版画専攻からグラフィックアーツ専攻へと名称変更されたことを機に、新たにグラフィックアーツ（GA）工房が新設されました。イラストレーション実習や絵本実習などが行われるほか、活版印刷機や活版校正機、各種製本機などブックアート関連機材が常設され、学生はそれぞれの実習を受けることでスキルを習得した上で、各自の制作に活用することが出来ます。

授業紹介

1年次最初のグラフィックアーツの授業では、「日常で気になった情景・イメージをスケッチし、さらにその絵をコラージュで再構築する」という授業を行いました。モノクロで制作した絵をコピーなどで複製し、再度貼り合わせる事で元の絵を変化させてみる、という内容です。

講評では最初に制作した絵と再構築した絵を見比べ、自らの表現の深まりを感じ取り、かつ、作品への客観性を養います。

普段の生活の中で自分は何に目が留まるのか、興味があるのか、という作家性を意識し、作品の中の線、フォルム、濃淡など、どこにオリジナリティが潜んでいるのかを、実際に頭と手の動きを一致させ、想像力と柔軟な発想の習得を目指します。

上：各種プレス機が設置され充実した設備のリトグラフ（石版）工房
リトグラフ主専攻の多くの学生が石版石を用いた制作を行っている
グラフィックアーツ（GA）工房の活版印刷用の活字棚
テキンと呼ばれる活版印刷機のほか活版校正機も完備されている

左：1年次グラフィックアーツ（GA）の授業の様子
講評では各学生の作品を並べ、本人による作品説明をする

学科紹介

油絵学科グラフィックアーツ専攻　専任教員

いとう瞳 教授

いとう瞳 ITO Hitomi

1973年　千葉県生まれ
1996年　武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科版画コース卒業（学士）
2000年　イラストレーターとして活動開始
2015年　武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科版画専攻
　　特別講師（－'22年まで）
2023年　本学着任

教員の研究内容

商業的な分野で作品を制作する“イラストレーション”を専門としています。この仕事のジャンルは様々で、使用画材は主にアクリルガッシュによる手描きをメインにし、場合により凸版による版画や、近年ではデジタル制作での対応もしております。私の中の制作において重要視しているのは技法ではなく、作品から漂ってくる自らのエッセンスのようなものが、表面から浮き上がってくるかどうかです。デザイン要素としての比重が大きいイラストレーションでは、仕事の依頼に応える事がまず大前提であり、基本的に完成した絵に全てを託すことになります。言葉には出来ない内容・感覚を、シンプルにかつ即座に見る人に理解・実感してもらうための制作では技術が必要です。ただ、その裏には、表現力やオリジナリティといった作家意識も、実はとても重要なものとして存在しています。近年は自らのイラストレーションと、そのルーツの一つである版画が、どのように繋がりを持っているのかを探る事に興味を持っています。そしてクライアントワークを続けながら、時代とともに変化してゆくこの世界において、普遍的でも流動的でもある表現力を携えていく事を求め続けます。

教員メッセージ

昨年度までは、特別講師として学生との関わりが年に3週間程でしたが、今年度から専任教員となった事で、学生の在学期間中の作品変化を知ることが出来、本人の人間性や興味の方向を把握した上でのアドバイスが可能になりました。また、授業以外ではどのような活動をしているのか対話することで、今後の授業内容などを考えるきっかけにもなります。アーティスト、イラストレーター・絵本作家など、それぞれ職業として肩書きになる仕事ですが、その職業になる方法や資格というものはありません。誰かに教えてもらうというよりは、本人の中に秘めているものを伸ばしていく事が一番重要です。自身の経験からも、それは簡単には見つけられない部分にあるため、それを共に探し出していくための助言や提案を念頭にしています。学生の時期に気づいたこと、心が動いたものに対しての影響はとても大きい事を卒業後、幾度となく感じました。潜在能力を引き出していくためにも、学生には自身の表現したい芯の部分を、躊躇せずさらけ出してもらいたいと思ってます。自ずと狭めた枠の中に入っていくだけでなく、希望するジャンルが無ければ、その枠を自ら作る意識で学生生活を進んでいって欲しいと願っています。

左上：アルバムCDジャケット、その他
　　広告等に使用のイラストレーションと原画（2022）
左中：自らの版画と原画の繋がりをテーマにした
　　オリジナル作品（2022）
左下：いとう瞳教授

授業紹介

武蔵野美術大学には、自身が所属する学科別の専門科目のほかにも、様々な授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

文化総合科目（全学共通科目）

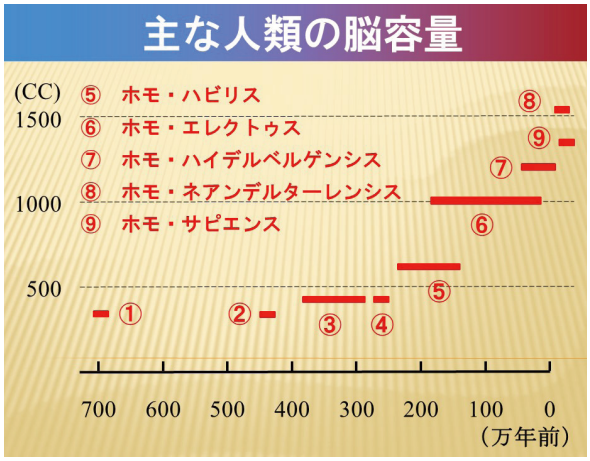
［文化総合科目］全学科対象の、広く一般の諸学問を学ぶ授業科目です。
美術・デザインの各領域はもちろんのこと、人文・社会・自然の各分野から、
外国語・保健体育まで、約750科目開講しています。

文化総合科目

人類の進化

教養文化・学芸員課程研究室
更科 功 教授

私たちはどこから来てどこへ行くのか。それは、すべての人が持つ疑問であり、また見果てぬ夢でもあります。科学はその疑問にどのように答えてきたのか、それを紹介するのがこの授業です。たとえば、有名な化石人類として、ネアンデルタール人がいます。ネアンデルタール人は私たちホモ・サピエンスより脳が大きかったし、私たちより先に絵を描き始め、石で大きな造形物も作り始めました。残念ながらネアンデルタール人は絶滅してしまいましたが、もしもネアンデルタール人が今も生きていたなら、私たちとは異なる美術が花開いていたかもしれません。あり得たかもしれない別の世界に思いを馳せることも、この授業の目的の一つと考えています。



上：授業の基本はスライドだが、論理を説明するときなどは黒板も使う
下：ネアンデルタール人（⑧）は私たち（⑨）より脳が大きかった

文化総合科目

文化講義1-3

言語文化研究室
小澤智子 教授

「文化講義1-3」（2024年度は「文化講義1-1」）では、グローバル史を意識しながら、幕末から明治初期の江戸（東京）や横浜港を起点とした人びとの「移動」経験に光をあてます。当時、日本政府は来日する外国人に徹底した隔離政策をつづけようとし、日本人が「出稼ぎ労働者」として集団的に海外へ出てゆく時代。異なる社会システムとの接触は、人や集団の社会的アイデンティティに大きな影響を与えます。さまざまな資料を客観的に読み解く力を伸ばすことを目指しつつ、人びとの多様な経験に触れ、自分の知らない出来事や考え方に想像を膨らませます。学生からは、当たり前と思っていたことがひっくり返った、差別問題は今も変わらない、昔の人の苦労があってこその今日だ、思いやりについて考えた、と言われます。

上：対面の講義科目ですが、学生は一次資料を検証する課題にも挑戦します。
　　オンライン上の古い写真データベースを確認する様子です。
中：日本からハワイやアメリカ本土への移住・移民史に注目します。
　　太平洋を渡った「写真花嫁」の経験にも触れます。
下：撮影に協力していただいた学生です。

column　ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。

武蔵美人（むさびと）

“むさびと”とは武蔵野美術大学を卒業し各方面で活躍している人達のこと。
企業への就職、独立、制作活動……、形は違えど皆社会に出て頑張っています。
このコラムでは企業で活躍する若手の“むさびと”を取り上げ紹介しています。
ムサビ生の卒業後の可能性や広がりを発見してください。

芸術祭での経験すべてが今の仕事につながっている

株式会社博報堂プロダクツ
企画制作事業本部 コンテンツデザイン部デザイナー

和久津桃子さん
2017年視覚伝達デザイン学科卒

ムサビ時代の一番の思い出は、芸術祭（学園祭）に4年間関わったこと。1年生のときは執行部という芸術祭全体の企画運営チームを担当。2、3年生はフリーマーケットに出すグッズ制作に励み、4年生では友人たちと共同で店舗出店して、販売物だけでなくパッケージやPOPづくりなどにも取り組みました。今思うと、企画・制作・ブランディングといった、現在の仕事につながるひととおりの経験を、芸術祭でやっていたのだと思います。

博報堂プロダクツに入社したのは、就活中、学内で開かれた会社説明会で、私のポートフォリオをアートディレクターに見てもらったことがきっかけでした。エントリーから課題、最終面接までとんとん拍子に進んだので、正直驚きもありましたが、デザイナー職に就きたい、それも企画から制作まで総合的に関われる会社がいい、という私の希望に、“プロモーション領域のものはすべてやる”というポリシーを持った総合制作会社はぴったりでした。

平面、立体、webと多岐にわたる仕事は、本当に日々勉強、日々新鮮です。商業施設のPRツールの仕事では、ムサビの大先輩でもあり、大学入試のために通っていた美術予備校の講師だった方にイラストをお願いすることもできました。おかげさまでクライアントにも好評で、かつて指導してくれた方に仕事で恩返しができたのも嬉しかったですね。　2019年7月取材

商業施設のPRツールの仕事では、都会の屋上リゾートをテーマにトロピカルなメインヴィジュアルを提案し、DMからフライヤー、ノベルティ、店頭ポスター、駅ナカ広告まで、大きく展開された。

特集2 ムサビ生の課外での活動をご紹介します。

mauleaf

コンセプトは“ムサビの「いま」を知る、わたしたちの広報誌”。
学生が中心になって制作し、キャンパスライフを楽しく・便利に・充実させるヒントを発信するメディアです。
2023年10月27日公開のWEB掲載記事より、本誌再編集版を掲載します。
mauleaf WEB版では、様々な記事を配信しています。左記QRコードよりご確認ください。
https://www.mauleaf.jp/

芸術祭「Dia de MAUertos」2023年度芸術祭執行部委員長インタビュー

毎年10月に本学鷹の台キャンパスで行われる芸術祭（以下、「芸祭」）は、
年に一度の大きな催しであり、全国的にも有名な学園祭の一つです。
2023年度の芸術祭実行委員会執行部（以下、「執行部」）の委員長である長野玲さんに、
学内広報誌「mauleaf」の学生メンバーがお話を伺いました。

総勢300人、芸祭執行部の活動について

執行部は芸祭の準備や運営にあたり多岐にわたって様々な活動をしていますが、一方で「“執行部”って何してるの?」と感じている方も多いかと思います。芸祭という一つのイベントを作るために、一年を通して具体的にどのような活動をしているのでしょうか?

まず、前年度の12月頃までには、執行部のリーダー的な存在である委員長や副委員長などの役職、執行部に属する全9部署の部長や副部長を決定します。また、新入部員を募集し、次年度のテーマを決めるところまでも前年度中に行われます。4月の入学式で新入生に向けて勧誘をし、5月あたりから企画参加者や展示・フリマ参加者のエントリーが始まります。そこから夏休みに入るまでは、建造物やオブジェ、装飾などの各種制作物はデザイン案を固め、出し物やパフォーマンスなどの企画参加系は審査などを経て企画内容とその参加者を確定させていく時期になります。制作も企画も、執行部は主に夏休みを使って全体の仕事を大きく進めていきます。それ以降の9月からは、本番に向けて最終調整や足りない部分を補っていく作業になります。

2023年度は1年生の新入部員がとても多いとお聞きしていますが、全体のリーダーという立場である委員長は、どのようにして部員たちをまとめていましたか?

執行部の構造としてはまず委員長、副委員長、書記、会計の四役と呼ばれる幹部がいて、9つある部署ごとに部長と副部長の役職がいます。そして部の中でもさらに班に分かれて活動していきます。

何かを決定するときは、班の中で固まったものをまずは部長にあげ、部長に持ってきてもらったものを四役で確認する、という形がとられています。なので、例えば役職を持たない部員や入ったばかりの1年生が何かアイデアを出したい場合、まず班長を通し、次に部長、次は四役に…というように、各リーダーにしっかりと確認してもらうというプロセスを踏んでもらうことで、300人を超える部員を四役中心にまとめ上げることができています。主に中間のポジションがある程度まとめてくれているという部分が大きいと思います。

「作り手」とは違う視点から全体をまとめる立場

では、長野さんが委員長になった理由を教えてください。

私は造形構想学部クリエイティブイノベーション学科に在籍していて、入試は学力試験のみで、特に絵の技術や何かを作る能力がないままムサビに入りました。1年生のときは執行部の広報部に所属して活動をしていたのですが、そこで「学生なのにこんなことができるんだ」と思うような人にたくさん出会ったんです。芸祭の3日間では、自分で制作したものを展示・販売したり、ステージでパフォーマンスをしたり、さらにその衣装や小道具も全て手作りだったりと驚きの連続でした。

私にとっては、周りはみんな特殊技能持ちというか…、魔法使いに囲まれている気分なんです（笑）。だとしたら、私は何もできないなりに、いろんな技能や個性を持った人が何百人といるこの環境で、超能力者たち全員の力をフルに活用できる場所を作りたいと思い、全体をまとめる委員長という役割に立候補しました。自分が作り手という立場ではないからこそ、作る側の人たちを俯瞰して見ることができるというのも、今このポジションを選んでいる理由なのかなと思います。

芸祭を運営するという仕事について、楽しい部分と大変な部分について教えてください。

楽しい部分は、こういうものを作ると聞いてから実際に完成したものが上がってくるときです。「こんなものが作れちゃうんだ！」という気持ちになる瞬間。2023年度は2022年度と違って企画参加者も執行部も含めて全体を見る立場なので、その中ですごい人たちに囲まれているんだなと実感できるのが一番ワクワクしますね。

大変なのは、必ず最後には一つに決定しなければならないということです。自分自身がすごく優柔不断な性格なので、これもいいしあれもいいと迷ってしまうんです。最近になってようやく決断を下せる判断力と勇気がついてきたかなと思いますが、決めなければならない部分と、自分の優柔不断さの折り合いがうまくつかなくて、いつも唇を噛みながらやっていました。

2023年度の芸祭について

2023年度の芸祭も2022年度に引き続き実地開催で、コロナが落ち着いてきて出来ることが増え、飲食が解禁になったりと自由度が増したと思います。2023年度の芸祭はどうでしたか。

2023年2月に四役で「そもそも芸祭って何でやるんだろう？」という話し合いをしました。ムサビ生だけが楽しければそれでいいというものではないけれど、外のお客さんに向けてサービスとしてやるものでもない。そもそも芸術自体がサービスとしてあるものではないですよね。

でも、まずはムサビの学生が目一杯楽しんで、その様子が来てくださった人たちに伝われば、ムサビ生もお客さんも最大限楽しむという部分が両立できるのではないかと思い、そこを踏まえて2023年度の芸祭のテーマを決めました。

美大は普段外部の方は気軽に入れないけれど、中に一歩入ったらすごい世界が広がっている場所です。芸祭では、たくさんの個性をごった煮にしたような世界が外に開かれます。いろんな人が外から入ってきてムサビ生の様子に影響を受けたり、逆にムサビ生が外から来る人の影響を受けたりすることもある。そういった「内と外が混ざる瞬間」が芸祭の肝だと思います。

芸祭という催しは参加者の熱量、執行部が学生の力だけでやり遂げた企画や制作物など、とにかく人の作ったものに山ほど触れられる場なので、そこが美大ならではの面白い部分だと感じます。外のお客さんにムサビ生の姿や作ったものを思う存分見てもらえる絶好の機会であると同時に二つの世界をつなぎ相互に影響し合う交点になる日だと思いますし、こんなにすごい人が何千人といる大学を普段見ているからこそ、私が日々感じているすごさをぜひみなさんに見てほしい！　と思っていました。

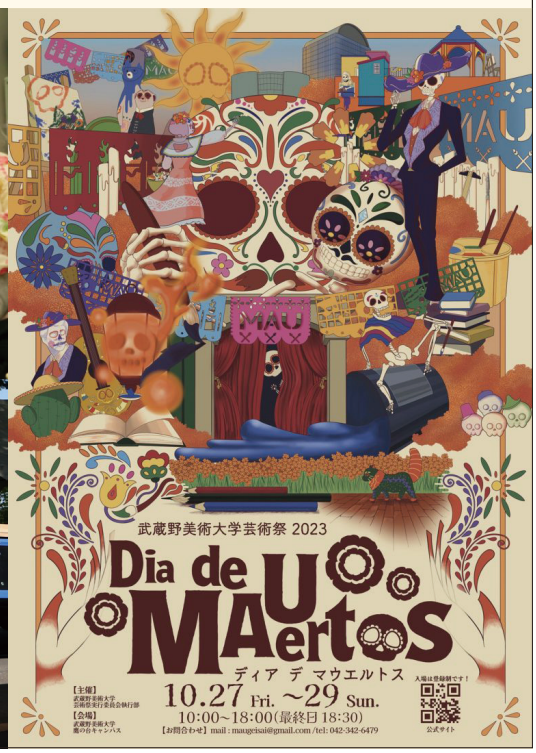
委員長である私の口から執行部ってすごい！　というと自画自賛みたいになってしまいますが、300人を超えるこの芸祭執行部という団体は本当にすごいことをやっていると思います。自分以外はみんな超能力者に見えるといいましたが、美大という環境もあって本人たちにはその自覚がないんですよ。絵を描くのが上手かったりデザインができたり、みんなのできることは本当に特殊なことなんだよ！　と伝えたいです。

引用：mauleaf WEB版「美大生はみんな魔法使い？
ムサビの芸祭2023について実行委員長に聞いてみた」
https://www.mauleaf.jp/mau-culture/2023/10/27/33/

編集・執筆・取材：デザイン情報学科２年　高橋雅
再編集：広報入学チーム　福島あかり

執行部委員長の長野玲さん

上：執行部メンバーはそれぞれの持ち場で
芸祭の準備を進めています
下：制作物をつくる執行部メンバー
右：2023年度の芸祭ポスター



NEWS 1

2024年度 在学生保護者向け教育懇談会のお知らせ

日時：2024年7月13日［土］午前・午後 計2回
会場：鷹の台キャンパス
参加方法：事前申込制（先着順）

＊上記予定は変更になる可能性がございます。ご了承ください。

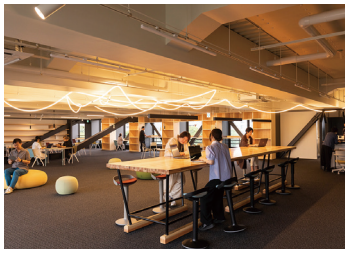
在学生の保護者の皆様を対象とした教育懇談会を開催いたします。当日は日頃の教育活動を説明するとともに「オープンキャンパス」も開催しておりますので、1日を通じて授業風景をご覧いただけます。詳細は今後大学webサイトにて公開予定です。ご参加には事前予約等が必要となる可能性もございますので、ご来校前に必ずwebサイトをご確認ください。

NEWS 2

インフォメーション

2023年度芸術祭「Dia de MAUertos」を開催
2023年10月27日－29日に、本学鷹の台キャンパスにて芸術祭を開催しました。2023年度も2022年度に引き続き実地開催となりました。芸術祭執行部の芸術祭にかけた熱い思いや、芸術祭当日の様子などは本誌p8－9をご覧ください。

「Musashino Art University Ichigaya Campus Co-Creation Space -Ma-」が令和5年度インキュベーション施設運営計画認定事業に認定
学校法人武蔵野美術大学の運営する「Musashino Art University Ichigaya Campus Co-Creation Space -Ma-」（市ヶ谷キャンパス7F）が、東京都の実施する令和5年度インキュベーション施設運営計画認定事業（分野特化型インキュベーション施設）に認定されました。なお、本事業の認定は、学校法人が運営するインキュベーション施設としては初めてとなります。（2023年12月6日現在）



2023年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作展を開催
2024年1月12日－15日に本学鷹の台キャンパスにて、1月26日－28日に市ヶ谷キャンパスにて、2023年度卒業・修了制作展を開催しました。それぞれのキャンパス内をギャラリーと見立て、2024年3月に卒業・修了予定の学部・大学院生による様々な作品・研究成果が展示されました。作品は、日本画・油絵などの絵画、アニメーション・映画・写真などのビジュアル作品、彫刻、版画、テキスタイル、インスタレーション、建築模型、工業デザインほか、多岐にわたりました。

令和5年度武蔵野美術大学 卒業式を挙行
2024年3月15日に、令和5年度武蔵野美術大学卒業式を挙行します。式典参加者は令和5年度学部卒業生・大学院修了生のみとします。会場の座席に限りがあるため、保護者・関係者の皆さまの大学への入構は可能ですが式典への参列はできません。ご理解賜りますようお願いいたします。

卒業式当日は、ご自宅等から式典の様子をご視聴いただけるよう、インターネットで動画配信をする予定です。詳細は学部卒業生・大学院修了生に対してLive Campusにてお知らせいたします。

NEWS 3

本学関連施設展覧会情報

2024年3月－2024年8月の予定

美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、
展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内
月・火・木・金［祝除く］11:00－19:00
土・日・祝 10:00－17:00
＊最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

https://mauml.musabi.ac.jp/museum/

2023年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展　4月2日［火］－4月30日［火］

民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一［1907－1981］［1965－1977本学教授］の指導により
収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。
収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内
収蔵庫見学 火・木
＊最新の情報は右記webサイトをご確認ください。
＊展覧会の開館日時は、美術館開館日時に準じます。

https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/

gallery αM

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有する
アーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに
展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都新宿区市谷田町1－4
武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 2F
火－土［祝除く］12:30－19:00

https://gallery-alpham.com/

開発の再開発
vol.4 松平莉奈｜3つの絵手本・10歳の欲　2024年1月20日［土］－3月16日［土］
vol.5 奥村雄樹　2024年4月13日［土］－6月15日［土］
vol.6 片山真妃　2024年6月29日［土］－9月7日［土］
（夏季休廊：8月11日－8月26日）

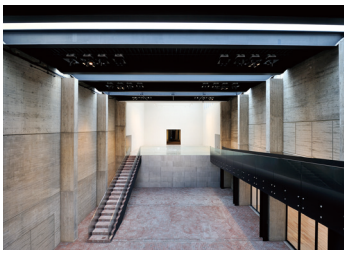
＊会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は上記webサイトをご確認ください。

美術館改修工事に伴う休館と
「改修休館企画シリーズ」の開催について

武蔵野美術大学美術館は、2024年5月から2025年夏頃までの期間、空調設備を中心にした改修工事のために休館いたします。（卒業・修了制作優秀作品展と助教・助手展は例年通り開催いたします。）

なお、この改修工事期間中も本学学生や関係者が作品に触れる機会を創出するため、図書館展示室および大階段にて「美術館改修休館企画シリーズ」と題し、様々な展覧会を開催する予定です。

在学生の皆さまにはご不便をおかけしますがご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



武蔵野美術大学 美術館・図書館
外観及び内観

2024年度前期学事予定

4月	2日	入学式
	8日	前期授業開始：鷹の台キャンパス
		第1ターム授業開始［－6月1日］：市ヶ谷キャンパス
5月	6日	振替休日は授業日
6月	3日	第2ターム授業開始［－7月27日］：市ヶ谷キャンパス
7月	13日	前期授業終了：鷹の台キャンパス
	15日	海の日は補講・試験日（市ヶ谷は授業日）
	15－20日	前期補講・講義科目定期試験週間
	22－8月31日	夏季休業：鷹の台キャンパス
	29－8月31日	夏季休業：市ヶ谷キャンパス

https://www.musabi.ac.jp/

お問い合わせ先

事務取扱時間　9:00－16:30［昼休み12:40－13:40、日・祝除く］

下記事項などについて質問がございましたらお問い合わせください。

お問い合わせ先が分からない方は代表（総務チーム）までご連絡ください。

総務チーム　042-342-6021

内容	お問い合わせ先	連絡先
本誌について	広報入学チーム（広報担当）	042-342-6038 koho@musabi.ac.jp
学籍、授業、試験、成績 教職・学芸員課程、単位互換 卒業制作展	教務チーム	042-342-6044
学費の納入	経理チーム	042-342-6042
奨学金 学生生活・課外活動	学生生活チーム	042-342-6028
健康相談、健康診断	保健室	042-342-6029
進路・就職、インターンシップ	キャリアセンター	042-342-6048
留学、留学生サポート、国際交流	国際チーム	042-342-6037
入学式・卒業式	教学企画チーム	042-342-6011
美術館、図書館 民俗資料室、イメージライブラリー	美術・図書チーム	https://mauml.musabi.ac.jp/
gallery αM	gallery αM	https://gallery-alpham.com/

ご寄付のお願い

教育振興資金

教育環境や修学サポートの充実など、
使途を指定いただける寄付制度です。
本学が100周年に向けて大学改革を着実に進め、
一層の発展、充実を図るために、なにとぞ
力強いご支援ご協力をお願い申し上げます。
https://www.musabi.ac.jp/outline/about/contribution/

MAU古本募金

「古本から未来をつくるプロジェクト」
現金での寄付とは異なり、不要となった
書籍等をお送りいただき、その買取金額を
学生支援のための給付型奨学金に
活用させていただく取り組みです。
https://www.charibon.jp/partner/musabi-u/

表紙作品 作者紹介

表紙では、本学助教の作品をご紹介します。
助教とは各研究室において、学生の
指導や、教授の職務補助など行う教員で、
学生にとっては身近な存在です。

川名晴郎　KAWANA Haruo
日本画学科 助教
2018年 武蔵野美術大学大学院
造形研究科修士課程美術専攻日本画コース修了
和紙や岩絵具など日本画の材料を用いながら、
奥行きのある空間と平面的な空間が
共存するような絵画の制作を目指しています。

〈表紙作品〉
タイトル：雪の小平
制作年：2018年
素材：雲肌麻紙、典具貼紙、
水干絵具、岩絵具、洋金箔

武蔵野美術大学公式アカウントです。
大学のニュースやトピックス等をお知らせします。

X（Twitter）
https://twitter.com/musabi_koho

Instagram
https://www.instagram.com/musabi_koho/

Youtube
https://www.youtube.com/@maumovie

LINE
https://page.line.me/tcs8156l

MUSABI information February 2024 ● 武蔵野美術大学 保護者向け情報誌 ● 2024年2月発行 ● 発行：武蔵野美術大学 広報入学チーム（広報担当）● 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 ● デザイン：三橋光太郎（視覚伝達デザイン学科卒）